昭和30年7月12日　朝日新聞　岩手版

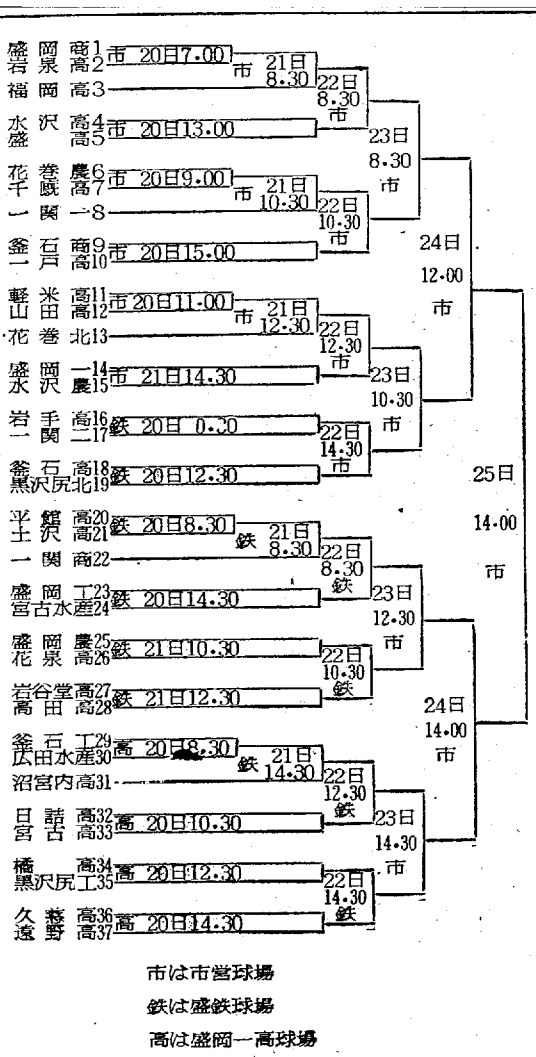
シード8校が不戦勝

高校野球 県予選組合せ決る

廿日から六日間、盛岡市内三球場で熱闘を繰展げる「第三十六回全国高校野球県予選大会」の組合せ抽選は、十一日午後零時半から盛岡市杜陵高校で参加三十七チームの代表によって行われた。その結果は別表のようで、まず春の県大会出場の福岡、盛岡工、花巻北、黒沢尻工、一関一、宮古、釜石、高田の八チームをシードしたあと、同一地区内チームが第三回戦までは顔を合わせないよう工夫された。シード校八チームはいずれも"第一回戦は不戦勝"という勝負運の強いところをみせ、初戦から釜石―黒沢尻北、岩谷堂―高田の中堅チームが顔を合わせる好カードがみられた。

⑪…今年は奥羽大会が盛岡で開かれるので準決勝出場四チームが本県代表として同大会へ出場出来るという――甲子園進出の絶好期なので、組合せ表を手にした各チーム代表は、早くも秘策をねっているのか、心は遠くグラウンドに飛んでいるといった表情。

⑫…組合せを四ブロックに分ければ❶盛岡商、福岡、一関一の三強豪が顔を並べた第一ブロック❷実力接近の中堅チームをそろえた第二ブロックが特に準決勝への道のけわしさを予想させている。



市は市営球場

鉄は盛鉄球場

高は盛岡一高球場

高校野球夏の大会 展望座談会 上

全国高校野球大会県予選はいよいよ五日後にせまった。奥羽地方には近来にない暑さの中で、球児達は焼けつく日射しと砂ぼこりにまみれて最後の仕上げに余念がない。歯をくいしばるようなはげしい練習の中でも彼らの胸は〝いざ闘わんかな〟の闘魂と〝甲子園〟への夢でふくらんでいる。栄冠はどのチームに？彼らはどう闘うか？以下は本紙記者の県予選展望座談会である。

平均してきたチーム力

光る技巧派、都鳥投手

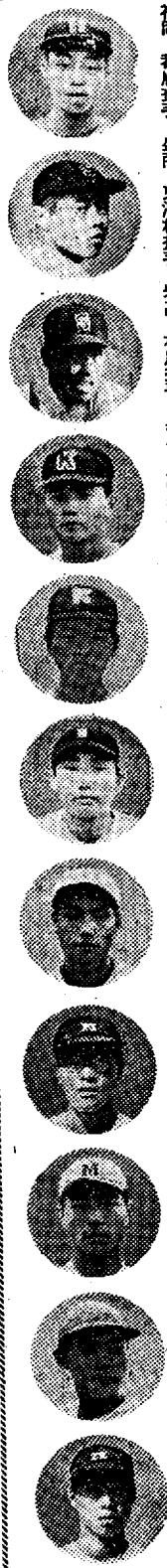
福岡

司会　今年のレベルは昨年に比べてどうだろう。

A　去年もずば抜けて強いチームがなかったが今年も見当らない。むしろBクラスの力が全般的に上って来ているので軽々しく予断はできないな。大会組合せから準決勝に残るビッグ4は幾分推測できるが、それ以上はむつかしい。

C：一昨年は盛岡一の藤沢、昨年は一関一の菅原といういい投手が群雄割拠しているといったところかな。

司会：高校野球の原則からすれば



福岡・都鳥投手　盛岡・東海林投手　岩高・村川投手　盛工・小野投手　黒工・清水投手　岩谷堂・佐々木投手　一関一・斎藤投手　宮古・貫洞投手　盛一・野中投手　一関一・佐々木三塁手　宮古・金沢一塁手

いたが、今年はそれに比べられる投手はいない。打撃でも三年前の奥羽大会では一関一のダイナマイト打線があったがそういうチームもないね。

司会：つまりチーム力が平均して来たのだな。

A：その一例に毎年岩手県だけが奥羽大会の出場校が変っている。各投手のあるチームに勝利ありということになるが、いい投手と呼べるところを挙げてもらおうか。

E：正統派の剛球投手では宮古の貫洞が一番だろうな。

D：岩谷堂に佐々木という投手がいるがこれも〝かくれた逸材〟だという評判だ。水沢駒形クの海野氏がほれこんでつきっきりでコーチしているとかきいている。五尺九寸、二十貫の恵まれた身体から投げ下す剛速球は荒削りだが本県には珍しい投手だろう。

B：岩手高の村川も二年生で未完成だがウワサが高いね。球質が素直で昨年はよく打たれたし、コントロールも悪かったが、今年はスピードも増し、カーブも会得したというからやるんじゃないか。

司会　スピード投手はどのくらいで技巧派はどうだ。

C：まず福岡の都鳥だな。サウスポーだがヌラリクラリと打気を誘って実にうまいピッチングをする。足の関節をちょっと痛めたというがもうなおったろうな。

A：春の県大会でも最終回に崩れて盛岡工に敗れたが、一、二回保てるリリーフがいたら勝っていたろう。

C：都鳥で春の東北大会優勝校の八戸高（青森）を二度破っている。だが都鳥は九イニングのうち一度は魔がさすというような欠点があるな。

B：盛岡では盛岡商の東海林。昨秋から今春まで非常に良かった。その後少しコントロールを悪くしていたが、いま復調しているそうだ。

A：コントロールがつけば打者さばきのうまい投手だから恐しい。キメ球のないのが弱味だ。

D：黒沢尻工の清水もいい。県下でも珍しいアンダスローで同じフォームから沈む球と浮く球の二種類を投げるからミートしにくい。

A：去年はリリーフ専門だったが一本立となって今年はどのくらいやるかな。

D：この春甲子園で敵闘した一関一の斎藤も見逃せないね。

E：沿岸ではチェンジオブペースの釜石の金野かな。今春の沿岸選抜で三十一イニング失点一という成績を挙げている。

C：シード校花巻北の大畠と中村はどうだろう。

B：春には大畠は重い球でよかったが、その後は打たれているらしい。中村もいま一歩だ。

司会：盛岡工の三人は…

B：小野は一年生ながらシュートにのびがあるし落着いたプレートさばきを見せるが九回の完投は難しいだろう。瀬川は火消し役には適当だが小野と球質は余り変らない。熊谷は球は速いがムキになるところがある。だが三人を巧に起用すればやはり強いといえる。

司会：ついでに打撃にも触れてくれ。

A：一般に気になるのはバッターボックスでベースからの離れすぎだ。ベースに余りかぶさるのはアンフェアだが、今のままではアウトコースの球が打てない。もう少し球に食いつくように打てないものか。

D：その点で一関一の佐々木は鋭い。このチームではトップの中井もうまいね。

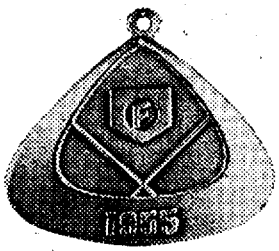
E：宮古の金沢一塁手は素直なフォームで豪快なロングヒッターだ。

B：盛岡ではロングヒッターとしては盛岡一の野中、クラッチヒッターでは盛岡商の内田、柴田かな。盛岡工の熊谷、坂本とシャープだ。

D：黒沢尻工の高橋もいい。

E：釜石工のキャプテン森もいいそうだ。

C：福岡の吉田も昨年はよく打った。チャンスに強い三割打者だから各チームのマークするところだろう。



県大会の優勝チームに贈るメダル

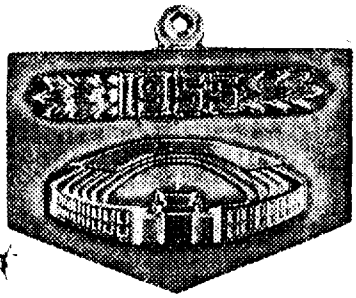
三角は球場をあらわし内部にダイヤモンドの線を浮き上らせて真中に高校野球を象徴する連盟のマークが配されている。

高校野球夏の大会 展望座談会

(下)

甲子園に出る絶好機

秋田・青森両県勢と好試合か



奥羽大会の優勝者に贈られるメダル

ホーム・プレート型で甲子園球場の中堅後方から見た全景。

司会…本県で頭角を現しそうなチームは一通り出たようだが、今年は第二次予選の奥羽大会も盛岡で開かれるので本県チームが甲子園へ出る絶好の機会なんだ。そこで秋田、青森両県勢の下馬評も聞きたいが……

C…では秋田から始めるが、秋田高と秋田商が群を抜いているそうだ。

A…秋田高は青山（現大映）らの卒業で一回りスケールが小さくなったが、攻守にまとまりよく"三年連続甲子園へ"をねらっている。

E…青山には一昨年の盛岡一、昨年の福岡と二度も苦杯をなめさせられたな。

D…中川投手はシュートとコーナー・ワークを武器にしているがスピードはない。新人で左腕佐々木がプレート度胸がいいときいている。

B…秋田商は嶮峨、三平、三浦と左右三人の完投投手をもち秋田高より投手力は上だ。嶮峨は五尺八寸の上背から投げ下す外角低目の速球とドロップになかなかの威力がある。強敵だよ。

E…だが嶮峨は終回近くに崩れるクセもあるそうだ。

B…秋田商は打力も鋭いし秋田高より強いんじゃないかという評判だね。

C…組合せは秋田高と秋田商が分れているからこの両チームが県代表になる可能性も強い。

A…秋田商のブロックに能代高がいる。速球の斎藤、カーブ、シュートの江坂の両投手がいい。斎藤は弘前高から三振十三を奪ったというから剛球だよ。

B…このほか同じブロックには本荘高、大田農、能代工という野心満々のチームがひしめきあっている。

司会…それでは青森勢に移ろう。ここ最近青森から甲子園へは出ていないが今年の実力はどうだろう。

A…八戸高、青森一高、弘前高がビッグ3で、中でも速球投手中島を持つ八戸高の実力が一頭抜を抜いているようだ。

C…春の東北大会でも八戸は福島双葉高、秋田高、盛岡工を連破して優勝しているからね。

E…組合せでは八戸が確実に奥羽大会に出て来そうだ。

A…投手の中島は速球一点ばりでなく打者によってフォームを変えチェンジオブペースで投げる細かい神経を持っている。このため疲労が少く連投に耐えることが大きな強味だ。

D…打線も下位打者までよく当るそうだが、守備はまだ乱戦になるとボロを出すクセがある。弱味といえばここだ。

E…青森一の投手新は大きく割れるドロップを持っているが非力だ。一年生に千葉という有望な新人がいるそうだけれども。

B…むしろ打撃のチームのようだ。

C…弘前高は春の県大会で青森一を破ったが決勝で八戸高に完敗している。エース三浦は左腕でインシュートと変化あるコーナーワークがうまく、強肩の捕手斎藤とのバッテリーは県下で一、二だ。しかし打撃力がない。

A…このほか青森商、弘前商、弘前工があるけれども少し劣るそうだ。

司会…相手にとって不足はないというところだな。

B…いずれにせよ、秋田、青森、岩手の三県をみても断然強いチームというのはなく、奥羽大会ではいい試合が続くだろう。本県チームが甲子園へいく望みは大いにありといいたいね。

司会…では最後に球児たちの健闘を願って座談会を閉じよう。

高校野球県大会開会式で「全国高校野球の歌」「岩手県高校野球の歌」を合唱するため盛岡市立高は、15日から全校生徒がコーラスの練習を始めた。いま同校講堂には球児の健闘を賛える歌が満ち満ちている。【写真は盛岡市立高のコーラス練習】

昭和30年7月20日　朝日新聞　岩手版

幕あけた高校野球県大会

37チーム、堂々の行進

沿道市民の拍手浴びて

甲子園への夢をのせて第卅七回全国高校野球県予選大会は十九日参加卅七チームが勢ぞろい、市内行進した後、開会式で花々しく開幕した。きょうから六日間盛岡市内三球場で三十六試合が行われる。

この日は近ごろの晴天続きをうけついでの全くの夏。五百余の球児は前年優勝の福岡高チームが優勝旗を手に朝九時十三分着列車で盛岡入りしたのをはじめ沿岸から内陸から相ついで県都へ集まってきた。午後四時とりどりの母校のユニフォーム姿で桜城小学校の校庭に顔をそろえ、盛鉄ブラス・バンドを先導に大通りを東進、開会式場の岩手公園広場まで市内行進を行ったが、沿道は五色のテープが舞い、市民の拍手がわき〝夏の大会〟に寄せられる期待そのままの花やかさだった。

開会式は主催者あいさつ、山本盛岡市長らの祝辞に応えて選手代表福岡高佐藤主将が力強くフェア・プレーを誓った。また同じ式場で県高野連創立十周年を記念して〝県高校野球の父〟県野球協会副会長長沢雄二氏に感謝状と記念品が贈られ、学生野球を愛し続けたこの先進者を賛えて球児たちからわれるような拍手がわいた。

このころ本社機「若風」号が訪れ、式場を二度、三度と旋回して空から大会を祝い、花束に包まれた処女球を投下した。なお松屋デパートの正面ウインドーに今年初めて参加三十七チームのチーム写真（四つ切大）が飾られてファンを喜ばせ〝わが雄姿〟にみとれる球児たちもあった。

盛岡市内の速報所決る

高校野球

二十日から始まる高校野球大会の経過を敏速に早くファンに伝えるため盛岡市内二十カ所、県内朝日新聞販売店で速報します。盛岡市

㊤盛岡市内を行進する三十七チーム㊦同市内のデパートに飾られた高校野球チームの写真

きょうの試合

◇市営球場
盛岡商―岩泉高（7時）
花巻農―千厩高（9時）
軽米高―山田高（11時）
水沢高―盛　高（1時）
釜石商―一戸高（3時）

◇盛鉄球場
平館高―土沢高（8時半）
岩手高―一関二（10時半）
釜石高―黒沢尻北（0時半）
盛岡高―宮古水（2時半）

◇盛岡一高球場
釜石工―広田水（8時半）
日詰高―宮古高（10時半）
橋　高―黒沢尻工（0時半）
久慈高―遠野高（2時半）
（上が一塁側）

昭和30年7月21日　朝日新聞　岩手版

繰り展ぐ熱球、沸く観衆

高校野球 県大会

強豪、順調に勝進む

初参加の軽米高 延長戦で山田を破る

第一日

夏の球界高校野球県予選第一日の二十日は盛岡市営、盛鉄、盛岡一高の三球場で第一、二回戦十三試合が行われた。台風十号接近を思わせた朝の雨雲も次第に晴れ上り昼前にはまぶしいばかりの快晴と代り好コンディションに恵まれ、各ナインは実力を十分に発揮することができた。一方スタンドは日一色。パラソルとウチワの波から声援がわきいつに変らぬ夏の大会の空気を盛りたてた。この日盛商、宮古、釜石工などの強豪は順調に勝ち残り、大会初参加の軽米高は今大会最初の延長戦の末山田高を降して初陣を飾った。

◇市営球場（第一回戦）

盛岡商 11－1 岩泉

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
岩泉	1	0	0							1
盛商	0	0	3	3	5A	0	1	1	1	11

（五回コールド）

【盛商】打安失
橋本（右）3 1 0
高島（遊）3 1 0
福田（遊）3 1 0
柴田（左）3 1 1
内田（左）3 1 1
岩清水（三）3 1 0
高野（中）3 3 1
小崎（一）3 3 1
里見（捕）3 3 0
岩崎（二）3 1 1
（投）山井
（投）
（打）
▽三塁打＝里舘▽二塁打＝柴田
振四犠盗
2 1 0 4 26 7 2

【岩泉】打安失
中村（遊）2 2 0
木村（左）2 2 0
植村（捕）2 2 0
佐藤（投）2 2 0
（三）々木 0 0 0
（一）櫻 1 0 0
（恭）重 0 0 0
八櫻（二）2 0 0
八重（遊）2 2 0
木村（中）2 2 0
北保（右）2 2 0
振四犠盗
3 1 0 0 18 4 4

【評】三回奮盛商が三点をおさめて以後の岩泉は全く気力を失ってしまった。試合なれしていないためとはいえ余りの変りようで情けない。岩泉内野守備の粗雑さが目立った。工藤投手のできは悪くなくコールドゲームにならずとも戦えた試合だった。盛岡打線は粗しやすしとみてかはじめに大振りを続けたが、後に打法を変えたのがよかった。（菊池栄主審）

千厩 6－2 花巻農

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
花巻農	0	1	1	0	0	0				2
千厩高	1	0	0	4	0	0	0	1	0A	6

【千厩】打安失
伊藤（遊）4 0 0
千葉（三）4 2 2
菅原（一）4 1 0
小野寺（左）4 2 1
佐藤（右）4 0 0
佐藤（投）4 0 0
小山（捕）4 1 0
片岡（二）4 1 0
佐藤（投）4 2 0
佐藤（右）4 1 0
佐藤（二）4 3 1
村上（中）
振四犠盗
2 0 0 4 35 8 1

【花巻農】打安失
阿部次（中）4 2 0
斎藤（遊）4 2 1
佐藤（一）4 0 0
八重（三）4 1 0
阿部（三）4 1 1
佐藤（右）3 0 0
佐藤（捕）3 1 0
伊藤（投）1 0 0
佐々木（打）1 0 0
佐藤（左）4 0 2
振四犠盗
6 6 0 2 31 5 7

▽二塁打＝阿部（恭）（花農）千葉（千厩）▽暴投＝佐藤（千厩）▽併殺＝千厩2

〜〜〜

昭和30年7月24日　朝日新聞　岩手版

高校野球 県大会

……第四日……

岩高、好投して圧勝

黒沢尻北の敢闘及ばず

大会第四日の二十三日は前日から繰延べとなった第三回戦岩手高―黒沢尻北高戦の一試合のみを盛岡市営球場で行い、大会後初の半休で人気を集めた。ゲーム開始後間もなく雨となったが、悪条件の中で選手は終始元気なプレーを演じ、スタンドは時ならぬカサの山となった。試合は岩手が黒北藤田投手の立上りを攻めて大量の先制点をあげて試合を決めた。

岩手高 12―2 黒沢尻北

岩手高	3	5	4	0	0						12
黒沢尻北	0	0	0		1	0					2

（5回コールドゲーム）

【評】黒北藤田投手は立上り球に伸びがなく外角をねらう球がことごとく流れ、カウントを整える好球を岩手上位打者にねらい打たれた。ウォーミングアップ不足がたたったのではないか。四、五回にきまり出したカーブは威力があり好投手に属すると思う。藤田の不調にひきかえ岩手村川投手はコントロールよく外角を攻めて黒北打線を封じた。途中で降り出した雨にもめげず大差をつけられながら黒北は最後までよく敢闘した。（坪井主審）

【岩　手】

		打	安	失
(三)	板垣	2	1	1
(一)	名井	2	2	0
(中)	田節	2	2	0
(捕)	久中	4	1	0
(遊)	口泉	3	1	0
(投)	小川	3	2	0
(右)	村野	2	1	0
(右)	沢昭	2	2	0
(左)	田口	0	0	0
(二)	佐木	4	0	0
	平野	3	0	0
振	四球	犠	盗	
7	10	0	3	25 10 1

▽三塁打＝沢田▽二塁打＝田中、沢野、板垣

【黒　北】

		打	安	失
(中)	沢藤	2	0	0
(投)	三田	3	2	0
(一)	沢田	3	1	0
(三)	高橋	3	0	0
(捕)	智田	2	0	0
(投)	藤研	2	0	0
(中)	浅沼	2	0	0
(右)	浅沼	1	0	0
(二)	斎藤	0	0	0
(遊)	高橋	0	0	0
(左)	藤澄	0	0	0
(右)	藤田好	1	0	1
振	犠四	盗		
6	7 1 0	16	3	1

岩手高対黒沢尻北戦、一回表無死高晨のとき田中の左翼線二塁打で三塁より板垣生還、初の得点をあげる。捕手高橋。

一戸・宿敵福岡を退く

岩手高、盛工と準決勝へ

高校野球県大会

（第五日）

準々決勝

裏羽大会出場をかける"負けられぬ一戦"。大会第五日の準々決勝戦は二十四日、盛岡市営球場で行われた。夜明けの雨に見舞われ気づかれた天候も、昼前から次第に晴れ上り、コンディションは上々。日曜日のスタンドは一万二千人の観衆をのみ、球児の一投一打によどいた。

○…第一試合一戸―福岡と新旧岡勢力を代表する県北岡士の対戦は、両三の波乱を伴するシーソーゲームの末、一戸が九回表・根反の殊勲の二塁打を生かして決勝点をあげた。一戸はさきに一関を破り、相つぐ金星をいとめる事裏羽大会への勝名乗りをあげた。

○…続く第二試合、花巻北―岩手戦は、岩手打線が花巻北・大島、中村両投手を集中攻め五回表に四安打、一四球を集中して大量五点を挙げ、村川の好投に支えられて9A-3で圧勝した。

○…地元同士の盛岡工と盛岡農の第一試合は、盛農がよくがんばって五回までやや対等に試合を進めた。六回以後は実力の差がはっきりと現われ、危うくコールドゲームは免れた。盛岡工は十六本の長短打をあびせ12―3の大差となった。

超満員の盛岡市営球場

一戸高の闘志見事

福岡七、九回ボーンヘッドで自滅

【評】浜発な打撃の応酬で、一戸が強敵・福岡を食って観衆をわかせた。福岡は七、九回二度のボーンヘッドで自ら試合を失ったようなものだ。七回表は一死二、三塁の時、浅野の二塁後方飛フライを田村がとり、三塁走者北館がスタートした時、田村の本塁送球は当然北館を刺せるものだったが、捕手・坂本は走者に気づかずとれを生かし、リードを失う原因になった。また九回表は一死二塁に走者根反をおき、遊撃手三ゴロを一塁に封殺した時、根反が三塁を企て、一塁手吉田の三塁高投が結局生命とりの一点となった。無謀な刺殺とみれば投げる必要はなかった。

県北岡士で一戸は若干敗れていたので捨て身になって闘いを進めたのに反し、福岡には気負いが感じられた。福岡は一戸の山口投手が中盤に乱れた時、もう少し待球策をとったら様子は変っていたかも知れない。福岡・都築捕手は球が浮き気味で、決して上出来ではなかった。一関についで福岡と、優勝候補を続けざまに破った一戸の健闘は大したものだ。一戸の根反三塁手の活躍は攻守共に光った。（長沢正主審）

【一戸高】打得安犠振四盗失

(遊)	里	3	1	0	1	1	1	0	1
(右)	北館	4	1	0	0	2	1	0	0
(三)	根反	5	1	2	0	0	0	0	0
(一)	浅里	3	0	0	1	0	1	0	0
(投)	山岸	4	1	0	0	1	0	1	0
(左)	佐々木	2	0	0	0	1	2	0	1
(二)	三浦	4	0	0	0	2	0	0	1
(捕)	夏井	4	0	1	0	2	0	0	0
(中)	金田一	4	1	1	0	0	0	0	0
	計	33	5	4	2	8	6	0	2

▽二塁打―千葉▽三塁打―根反、佐藤▽捕逸―夏井▽併殺―一戸1

【福岡高】打得安犠振四盗失

(遊)	川原	2	1	0	1	0	2	0	0
(左)	佐藤	4	1	1	0	0	1	0	2
(三)	千葉	4	0	2	0	1	1	0	1
(右)	上沼	4	0	0	0	1	0	1	1
(一)	吉田	3	0	0	0	1	2	0	1
(中)	本川	2	0	0	0	0	2	1	0
打(二)	漆田	1	0	0	0	1	0	0	1
(捕)	村坂	4	1	0	0	1	0	0	1
(投)	都本	2	1	0	0	0	2	0	0
	馬	3	0	1	0	0	1	0	0
	計	29	4	4	1	4	12	1	5

▽二塁打―大島、小泉、沢野、名久井▽併殺―岩1

花巻北　投手交代に問題

【評】チームの実力に差はないと思うが、投手の安定していた岩手が勝った。花北の投手交代にも問題があったと思う。五回表、無死一塁走者が盗塁で出たあとベンチは、先発大島を前日対盛岡一戦で好投した中村に切替えたが、大島が立上りの不調から立直って球に伸びが出はじめたときでもあり、リリーフに立った中村に準備ができていなかった。中村は盛一戦にみた球威なく、スピードもカーブも乗らず、岩手に連打されてしまった。もう一回、大島に投げさせてもよかったと思う。

花村は疲れていたのか対盛一戦での調子は見る影もなく、特に大事のついてからの後半は、全く沈みきっていた。振わぬ花北打線にあって大島の打線は鋭かった。（坪井主審）

【花巻北】打得安犠振四盗失

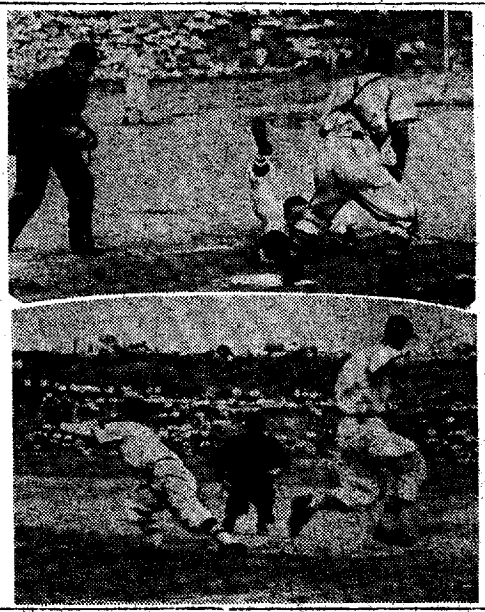
(中)	佐藤	3	5	0	1	0	0	0	0
(二)	浅野	4	0	0	1	0	0	0	0
(一)(投)	中村	1	0	0	0	0	3	0	0
(捕)	藤	3	0	0	0	0	1	0	1
(遊)	伊藤	4	2	0	0	0	1	0	1
(左)	宮沢	4	2	2	0	0	0	2	0
(投)(一)	大島	3	0	2	1	0	0	0	1
(右)	阿部	2	0	0	0	0	0	0	0
(三)	佐藤	3	0	0	0	0	0	0	0
打	小原	1	0	0	0	0	0	0	0
	計	30	3	4	1	5	6	1	3

▽二塁打―大島、小泉、沢野、名久井▽併殺―岩1

無気力だった盛農

【評】盛農は全然元気がなかった。あれでは勝てない。盛岡農吉岡、谷藤両投手は球が常道過ぎ盛岡工十六安打を許した。盛岡農は攻めても選球眼が悪く、内野守備もお粗末でよいところがなく敗れた。盛岡工は比較的楽な試合だったが、小野投手の出来は少しもよくなく、外角のくさいところを衝いた球がよくはずれていた。裏羽大会に出るとなれば、こんなだ球をのなくせねばなるまい。持前のインシュートをもっと活用すればよいと思う。盛岡工は手をあげて早く解散を決めるだけの気構えがさらに必要で、攻撃が粗雑だった。（宮沢主審）

盛岡工　2 1 0 0 0 3 1 5 0 12
盛岡農　1 0 0 0 0 0 0 2 0 3



写真（上）一戸―福岡戦＝四回裏、補球に死一、二塁のピンチ、都農の右前安打で田村二塁から帰り同点（下）花巻北―岩手戦＝四回表、花北の盗塁遊ゴロ失で一塁に早くも生きる。

【岩手】打得安犠振四盗失

(三)	板垣	4	2	1	0	1	1	0	0
(一)	名久井	4	2	1	0	0	1	0	0
(中)	田口節	5	1	2	0	0	0	0	0
(捕)	田中	3	1	2	0	0	1	0	1
(遊)	小泉	5	2	2	0	0	0	0	1
(投)	村川	5	1	3	0	0	0	0	1
(右)	沢野	4	0	2	1	0	0	0	0
(左)	佐々木	4	0	0	0	0	1	0	0
(二)	平野	3	0	0	0	0	1	0	0
	計	37	9	13	1	1	5	0	3

▽二塁打―吉田遥2、坂本、角谷▽併殺―十嵐2▽野澤―鹿内

【盛岡工】打得安犠振四盗失

(中)	才川	6	1	1	0	0	0	1	0
(一)	角谷	5	1	1	2	0	0	0	0
(右)(投)	瀬川	5	1	2	1	0	0	0	0
(三)	飛沢	4	1	1	2	0	0	0	0
(遊)	坂本	4	1	2	1	0	0	0	0
(左)	志田	4	0	1	0	0	0	0	0
(投)(右)	鹿野	4	2	2	2	0	0	1	0
(捕)	小野寺	4	2	2	2	0	1	2	1
	計	41	12	16	1	2	8	2	1

【盛岡農】打得安犠振四盗失

(二)(遊)	川原	5	0	0	0	0	1	1	0
(中)(捕)	藤田	4	0	1	2	0	0	0	0
(投)(右)	吉来	3	0	1	0	1	0	2	0
(右)(三)	吉田勇	3	0	1	0	1	1	0	0
(左)	小原	2	0	0	1	0	0	0	0
(三)打	八重田	3	1	0	0	0	0	0	0
(右)(投打)	吉田昭	1	0	0	0	0	0	0	0
(一)	高橋	2	0	0	0	0	0	0	0
	佐藤	4	0	0	0	0	0	0	0
	麗内	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	30	3	6	1	6	7	0	4

ネット裏から

雨で球場整備に苦労さま

○…暁の雨に襲われて、この朝のグラウンドは内外野のことごとくみな球をのなくせねばなるまい。

◇準決勝
▽市営球場
一戸高―岩手高（正午）
盛岡工―高吉高の勝者
（浅野高の勝者）
（二時）

きょうの試合

"恋人"のチノコ模様美し

○…"大雨注意報"まで飛出したこの日の天候に、観客はいずれもカサを片手にグラウンドへ…。ところが第一試合ごろから、カンカン日照り。カサはたちまち日除けに水をまりが出来た。大会関係者だけではなく、県審判協会の人々まで出て、早朝七時からスコップ片手にグラウンド整備に率先。おかげで定刻より一時間足らず遅れただけで第一試合を始めることが出来た。いつもながら御苦労さまの話。

大飛球捕球に拍手出

○…裏羽大会の出場をかけているだけに、この日は熱戦が続出。第二試合の花北―岩手戦の二回裏、岩手の佐々木左翼が高く放った大飛球を、花北・宮沢左翼手、背走また背走で後ろ向きのまま好捕すれば、それに応えるように五回表、花北・浅野の左翼線いっぱい一百八十フィートはあろうという大飛球を、岩手・佐々木左翼手もよく走りシングルキャッチして満場。ファインプレーでも拍手いう場面だった。

"大雨注意報"は無効

○…"大雨注意報"は無効にかわり、グラウンドに赤色のキノコがニョキニョキ。中には雨傘どちらでもいいという無神経ナントをはるものまで現われる始末。

一戸から打ち続く長距離電話

○…"大雨破らずんば……"の意気ものすごく乗りこんだ一戸ナインを応援して、グラウンドには一戸から長距離電話が相つぎ、一イニングごとくらいにかかってくる熱心さ―係りのものも情にはだされて、つい実況放送のアナウンサー調。

秋田高と秋田商

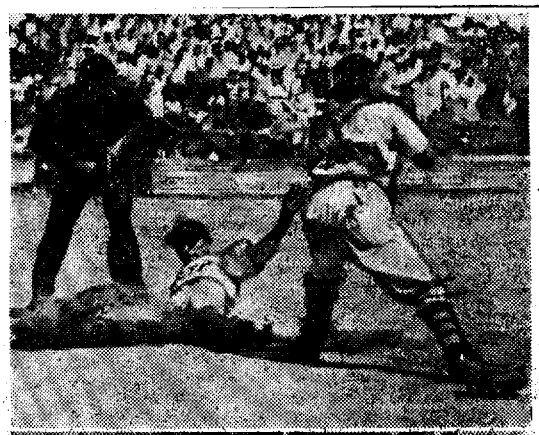
秋田県代表決る

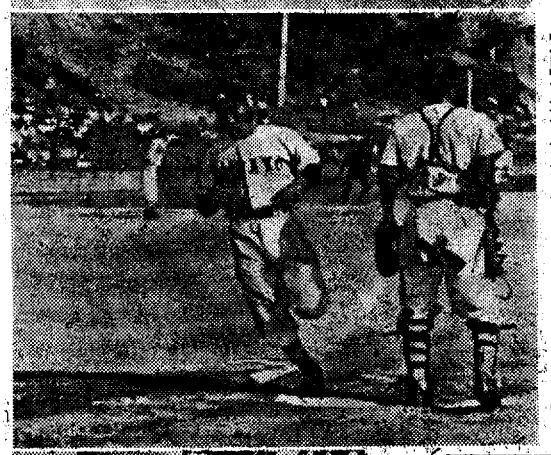
【秋田発】高校野球秋田県大会の決勝戦は二十四日正午から秋田市形状場で行われ、秋田高が3A-2で秋田商を降し、三年ぶりに第四大会には同チームが出場する。試合は両校とも主戦投手の負傷欠場で秋田高・伊藤、秋田商・三浦両投手の対戦となり、打撃戦を予想されたが、両投手とも好投したので一点差を争う接戦になった。

秋商は三回当っている清水の三塁打で二点を挙げて先取したが、秋商も姜打とスクイズで一点を挙げ、一度はタイに持込んだが、九回裏固くなった秋商の内野陣が乱れ、秋高が決勝戦を拾った。

昭和30年7月26日　朝日新聞　岩手版

きょう決勝





岩手、一戸に打勝つ

延長十回　盛工、宮古に敗る

高校野球県大会

第六日　準決勝

笑日の二十五日は前日暴雨大会本県代表と決った一戸、岩手、盛岡工、宮古の四チームによる準決勝二試合が行われ、大会はいよいよ大詰めに入った。目前に迫った県優勝、しかもどのチームにとっても"初優勝"とあってこの栄冠を得ようと各チームは最後の力をふるい立て、第一試合一戸―岩手戦は正午試合開始、一戸はエース田尾、岩手は新人の松館をマウンドに送ったがさすがに山岸に疲労の色濃く松館にも球威なく激しい乱打戦となった。両チームとも山田、村川をそれぞれ救援に送った末、打棒の応酬は続き岩手がわずかに打ち勝った。

第二試合の盛岡工―宮古戦は小野、貫洞両主戦投手の対戦で午後二時五十分からはじめられた。盛工対宮古の試合は両投手の好投とそれに屈せぬ好打があって2―2のまま延長戦に持込まれた。十回裏宮古一死後二四球のあと佐々木が殊勲の右越安打で決勝点をあげた。決勝戦はきょう一時から岩手、宮古両チームの間で争われる。

一戸高　1 0 3 3 0 0 0 2 0
岩手高　0 4 3 0 0 5 0 2 A　14 9

【経過】【一回】▽一戸、里、浦右前安打に出たが、二盗成らず、夏井は三ゴロ▽岩手、田中左越二塁打で反撃に移る。小泉中飛、山岸投手走者を苦しめたが沢野、佐々木を歩かせて満塁、松館二塁後方幸運のテキサス・ヒットで田中も生還、まず同点。平野中前安打で沢野、佐々木生還、松館は三進、板垣遊ゴロで平野三封し走者一、三塁、打者名久井の時山岸の暴投で松館生還、板垣、三塁、名久井一塁で攻撃ようやくはじめ。（一戸0、岩手4）

【二回】▽一戸、金田一右飛、里遊撃内野安打、北館投ゴロで里二封、根反左越二塁打で水館生還、浅里も暴投で三塁、根反生還、松館の暴投で浅里三進、山岸四球で満塁、田中に送られ二進、小泉の左中間を破る二塁打で田口生還、沢野中前安打で小泉生還、一戸山岸制球難に陥り佐々木、松館四球で満塁。（一戸投手山田となり、山岸は右翼へ）平野も四球で沢野押出しの一点を加える。板垣左飛、名久井投ゴロ。（一戸3、岩手3）

【三回】▽一戸、三浦四球、夏井左前安打、金田一のパントは野選となり満塁。（岩手松館退き村川投手となる）里左前安打で三浦生還、田中悪送の安打で夏井、金田一生還し、三たび同点、根反二前安打で田口、田中二者生還、浅里遊飛、山岸投ゴロで里本封、佐々木投ゴロ▽岩手、田口四球、田中三ゴロで田口二封、小泉二塁、沢野三ゴロ（一戸3、岩手0）

【五回】▽一戸三浦投ゴロ、夏井四球、金田一死球で一、二塁、里の三ゴロは3―2―1で併殺▽岩手、佐々木四球、村川投ゴロで佐々木二封、板垣三ゴロで平野も二封（両軍0）

【六回】一戸、山田三飛、根反三ゴロは一塁暴投となり二進、浅里三振、このとき根反三盗、山岸遊撃線を破る安打、田中一、二塁の内野安打で満塁、小泉三ゴロは根反の本塁低投で名久井生還、沢野三前安打で田口、田中二者生還、佐々木四球で田口押出される。打者三浦のとき三塁走者浅野は投手のケン制球で刺され三浦三飛▽岩手、沢野中前安打、佐々木に送られ二塁、村川右中間を破る二塁打で沢野生還、平野右前安打で村川生還、板垣も右前安打で一、二塁名久井の三ゴロを根反捕えそのまま遊撃に入り、平野を三封、一塁に送球し名久井を刺して併殺（両軍0）

【七回】一戸、佐々木死球、三浦中前安打で一、二塁、夏井三振、金田一遊ゴロで三浦中封、この間に佐々木三塁から本塁をついたがザ塁からの好返球で本封、▽岩手田口三振、田中三飛、小泉中飛（両軍0）

【八回】一戸、里遊ゴロは一塁悪送で生き田口一塁後方のフライを名久浅球、根反野飛、浅里左前安打で里生還、山田二進、山岸四球で佐々木四球で田口押出される。打者三浦のとき一塁走者浅野は投手のケン制球で刺され三浦三飛▽岩手、沢野中前安打、佐々木に送られ二塁、村川右中間を破る二塁打で沢野生還、平野右前安打で村川生還、板垣も右前安打で一、二塁名久井の三ゴロを根反捕えそのまま遊撃に入り、平野を三封、一塁に送球し名久井を刺して併殺（両軍0）

【九回】一戸、夏井左飛、金田一中前安打、里四球、山田投前犠打で三進、根反右飛の暴投で大乱戦の幕を開ける。

精彩を欠いた一戦

【評】先発した岩手松館、一戸のエース山岸両投手はともにスピードもなくコントロールに欠け、ボールの数が多くなり乱戦となったが、結局いい球を見逃さず打った岩手高が勝った。一戸高山岸投手はヒジを痛め代った山田投手も球威がなく岩手高の打棒を真正面にくらった形となった。岩手高も三回一戸に三点をとられて温存していたエース村川を登板させたが、あまりいい出来ではなかった。一戸高の根反、浅里、山岸の三一五番までの打撃は光っていた。両軍の疲れがありありと出ており試合は精彩を欠いた一戦に終った。一戸高は県対大会までに山岸投手のヒジを早く回復させて投手力の増強をはかることが必要だ。岩手高は鋭いい球を選んで打つ確実な打撃のコツを生かしていけば相当戦えると思う。（長沢主審）

【一戸高】		打	得	安	犠	振	四	盗	失
(遊)	里	4	2	2	0	0	0	2	0
(右)	北館	1	1	0	0	0	0	0	0
投	山田	3	1	1	1	0	0	0	1
(三)	根反	6	1	1	0	0	0	1	1
(一)	浅里	5	1	3	0	1	0	0	1
(投右)	山岸	3	0	0	0	0	2	1	0
(左)	佐々木	3	0	0	0	0	2	0	0
(二)	三浦	4	1	2	0	0	1	0	0
(捕)	夏井	4	1	1	0	1	1	0	1
(中)	金田一	4	1	1	0	0	1	0	0
	計	37	9	11	2	2	9	2	4

【岩手高】		打	得	安	犠	振	四	盗	失
(三)	板垣	6	0	1	0	1	0	0	1
(一)	名久井	5	1	0	0	0	1	0	1
(中)	田口	3	2	1	0	1	2	0	0
(捕)	田中	4	2	2	1	0	0	0	0
(遊)	小泉	5	2	1	0	0	0	0	2
(右)	沢野	4	4	3	0	0	1	0	0
(左)	佐々木	1	1	0	1	0	3	0	0
(投)	松館	1	1	1	0	0	1	0	0
投	村川	3	1	1	0	0	0	0	0
(二)	平野	4	0	2	0	0	1	0	1
	計	36	14	12	2	2	9	0	5

▽二塁打―田中、小泉、村川、根反、浅里▽暴投―松館2▽捕逸―夏井▽併殺岩2―1

❶一戸対岩手戦、六回暴投死満塁のとき沢野の左前安打で田口に続き二塁より田中本塁をつく❷盛工対宮古戦、二回裏二死二、三塁の時宮古暴投の遊ゴロ失で捕沢三塁から生還、最初の得点をあげる❸スタンドに咲いた美ワラ帽子

栄冠、岩手高に輝く

宮古の反撃成らず

スタンド、興奮の絶頂に

高校野球県大会　決勝

五日から七日間熱戦を続けてきた第三十七回全国高校野球県予選大会は岩手高の優勝で二十六日終幕した。岩手高は乗出した選手を持たず、大金節にはよくにマークされてもいなかったが、チームの団結で一戦ごとに調子をあげ、野球部創設十年目でついにこの栄冠を得た。

県優勝をかける決勝戦岩手―宮古戦はこの日午後四時五十七分盛岡市営球場で岩手先攻で開始された。岩手はエース村川を出したが、宮古は貫洞投手をベンチにおき、奮起をついて佐々木投手を起用した。試合は前半一回チームとも滑んに墓上をにぎわしたが、いずれも好投、好守に阻まれて得点にいたらず、0―0の均衡は容易に崩れなかった。しかし終盤近い八回裏機をつかみ、満塁策をとり、貫洞投手は一安打、内野失を足場に好打一四球で追加点をあげた。宮古は前安打で一二塁、佐々木の犠牲打で三塁、谷口の二塁打で二点目、佐々木の犠牲打で三点目、佐々木の二塁打で四点目、佐々木の犠牲打で五点目をあげ、九回裏谷口の懸命の反撃も空しく、九回裏谷口の無念の補殺飛で午後一時五十二分試合を終了した。

引続き閉会式に移り、樋口高野連会長から名誉ある真色の本社優勝旗が渡された。小川副知事の激励の言葉に応えて岩手高田中主将は遠羽大会への健闘を誓った。

甲子園への代表校を決める奥羽予選大会は来る三十一日から三日間同球場で秋田、青森、岩手三県代表を集めて開われ、本県からは県優勝岩手高、準優勝宮古高および県決勝に出場した二戸高、盛岡工の四チームが出場する。

岩手高の優勝まで

【第一回戦】不戦勝（宮古）【第二回戦】対一関二高1―3【第三回戦】対黒沢尻北高12―2（五回コールド）【準々決勝】対花巻北高9―3【準決勝】対宮古高2―0

八回表、好機をつかむ

樋口高野連会長から優勝旗を受ける岩手高田中主将

岩手高	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
宮古高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【経過】【一回】▽岩手、先頭打者板垣左翼線安打にでまずが、とよめく。名久井型通りのバントで板垣を送る。試合のはじめから好機が訪れたが、田口二ゴロ。期待された主将田中は一塊に終る。しかし宮古投手の佐々木ボールの数多く不安を残す▽宮古、高浜1―3のあと四球に歩き長沢バントしたが三塁の板垣スタートよ打一四球で追加点をあげた。宮古懸命の反撃も空しく、九回裏谷口の無念の補殺飛で午後一時五十二分試合を終了した。

引続き閉会式に移り、樋口高野連会長から名誉ある真色の本社優勝旗が渡された。小川副知事の激励の言葉に応えて岩手高田中主将は遠羽大会への健闘を誓った。

優勝した岩手高チーム

くとれをとって高浜を二塁。佐々木石前安打で一、二塁。宮古も同様のチャンスに恵まれ、次打者は長打金沢、この時村川は正面スタンドの観衆の水面が反射してまぶしいとタイムを要求、好天が試合を中断した形。金沢は2―1のあと村川得意のアウトカーブで三振に倒れ、梅沢も二ゴロで無為。（両軍0）

【三回】▽岩手小泉の遊ゴロを野中捕はじいて生き、沢野はストレートの四球で無死一、二塁の好機、しかし佐々木の投前バントを佐々木素早くマウンドをおりて小泉を三封、村川の二ゴロは沢野二封され、二死一、三塁、このころ打者平野の時、村川一盗したが、平野一飛、また機逸す▽宮古渡辺ゴロで三者凡塁。（両軍0）

【三回】岩手、板垣左翼二八五はのフェンスにワンバウンドであるこの二塁打で出塁、名久井の深い三塁打金沢、この時村川は正面スタンドの観衆の水面が反射してまぶしいとタイムを要求、好天が試合を中断した形。金沢は2―1のあと村川得意のアウトカーブで三振に倒れ、梅沢も二ゴロで無為。（両軍0）

【三回】▽岩手小泉の遊ゴロを野中捕はじいて生き、沢野はストレートの四球で無死一、二塁の好機、しかし佐々木の投前バントを佐々木素早くマウンドをおりて小泉を三封、村川の二ゴロは沢野二封され、二死一、三塁、このころ打者平野の時、村川一盗したが、平野一飛、また機逸す▽宮古渡辺ゴロで三者凡塁。（両軍0）

【三回】岩手、板垣左翼二八五はのフェンスにワンバウンドであるこの二塁打で出塁、名久井の深い三塁打金沢、この時村川は正面スタンドの観衆の水面が反射してまぶしいとタイムを要求、好天が試合を中断した形。金沢は2―1のあと村川得意のアウトカーブで三振に倒れ、梅沢も二ゴロで無為。（両軍0）

【四回】▽岩手、小泉、沢野ともに二ゴロ、佐々木の遊撃後方のフライを遊撃手中、三塁梅沢ともに追う。衝突しかけ、野中がよく捕える。岩手はじめて二者凡退▽宮古、金沢2―1のあと、貫中高目の球を空振、野中二塁を喫する。梅沢右中間二塁打を放つ、ネット裏では外野手の球を追う方向が悪いから二塁打になるのではないかという声、渡辺一ゴロで梅沢三塁、野中はカーブで攻められて三振。（両軍0）

【五回】▽岩手、村川一ゴロ、右翼方面から涼しい風が吹き始め、炎天下のスタンドはちょっと涼を入れ、この風を歓迎、グラウンドは所々暗い影ばかり。平野は右翼線安打に出たが、板垣、名久井とも内野フライ。守備陣代の時間三塁、高浜三振で二死、打者長沢の時谷口二盗を敢行して危うく生きる。捕手田中は谷口を刺したと思い、ベンチにもどりかけて引返す。長沢二ゴロに終り走者を進塁す。長沢二ゴロに終り走者を進塁す。長沢、試合はスピーディに進めながら0―0のまま勝利の行方を後手に持越す。（両軍0）

【六回】▽岩手、田口三振、宮古の佐々木投手はコントロールも落着き、慎重に投げて好投、田中遊ゴロ、小泉三ゴロ。▽宮古、佐々木投ゴロ、四番打者金沢三塁目のボックスに立つが、いまだに村川のカーブで再度三振を喫している。▽岩手小泉の遊ゴロ、梅沢三振、宮古貫洞のカーブで再度三振を喫しているのでスタンドから〝カーブ、カーブ〟と声がかかるが、今度は2―2の後遊ゴロ、梅沢三振、宮古貫洞の後遊ゴロ、梅沢三振、宮古貫洞の後遊ゴロ、梅沢三振、宮古貫洞

高校野球 県大会を顧みて

〝名門〟軒並み倒る
多かった粗雑なプレー

全国高校野球県予選大会は二十六日岩手高の初優勝、宮古高の準優勝で七日間の会期を終えた。すぐ続いて奥羽予選大会が三十一日から三日間盛岡市営球場で開かれ、岩手、宮古、一戸、盛岡工の四チームが本県代表として秋田、青森両県代表の四チームを迎え甲子園出場をかけて争う。〝三年ぶりに本県チームを甲子園へ〟の本県野球ファンのだれしもの願いを実現するよう同大会でこの本県チームの敢闘を願いながら県予選大会を顧みよう……

Q…今度の大会ほど、いわゆる名門と呼ばれ伝統を誇ったチームが次々と倒れ、新進チームが台頭した大会は近年にあるまい。盛岡一、盛岡商の県都の両名門、一関一、福岡などの伝統のチームはいずれも準決勝を待たないで姿を消し、準決勝に残った四チームのうち、どれが優勝しても初優勝になるという事実でそれがうかがわれると思う。優勝した岩手高チームにしても戦後チームだ。これは、主力選手に不幸な故障があったチームもあったとはいえ、それらの名門チームがかつて〝君臨〟したように絶対的な強さを持ったチームでなかったからであり、他方、各地チームの実力が向上しチーム力が非常に接近して来たためだろう。全般にチーム力が向上することはもとより好ましいことだが、名門チームの相並んでの不振はやはり大会をさびしいものにした。何といっても指導者に人をえているQとでもあり、県の高校野球をリードするだけの模範的なプレーをもっと見せてもらいたかった。来年の奮起を望みたい。

Q…新鋭チームの活躍のなかでもまず特筆されるのは優勝チームの岩手高である。組合せのクジ運は悪くはなかった。だが、スタープレーヤーがいるわけではなく、全般に身体も小柄でスケールが大きいとはいいかねるこのチームの優勝はたしかに大方の予想を裏切った。村川―田中のバッテリーを中心に全チームが一丸となって一戦一戦に全力を傾けて闘い、この栄冠をえたといえる。優勝候補福岡商が目ごろ楽勝している一戸高に気のゆるみから敗れたのと好対照だった。村川はよく投げた。一人が打ち出すと他の選手もそれに負けずに当り始めた。こうした波に乗る若々しい闘志がこのチームの身上だろう。投攻守にバランスがとれ、中でも二割八分二厘のチーム打率が示すように打棒が振った。

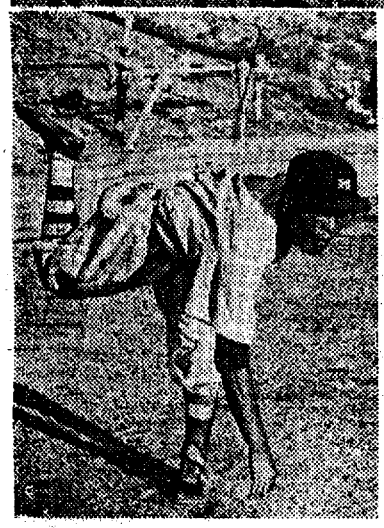
Q…エース貫洞投手を盛り立て、対遠野高、対盛岡工など苦しい闘いを続けながら準優勝をとげた宮古高も見事だった。貫洞は他に秀れた投手が見当らなかった今大会にあって、外角低目を衝く剛速球、ブレーキ豊かなカーブで打者を前取り、豪快な投手振りを楽しませてくれた。このほか、一関一、福岡の両雄を連破し奥羽大会の出場権をえた一戸高、宮古貫洞投手を打ち込み延長戦で惜敗した釜石工、初出場ながら山田高を破り、花巻北と善戦した鹿角高昨年に続く二度目の出場でありながら第三回戦まで進んだ土沢高などの敢闘も目立った。とくに土沢高は出場の三日間、ほとんど全校生徒と町民を加えた応援団が貸切バスで来場、熱心な声援には今後も伸びるチームを予想させた。なお、目ごろ盛岡の諸強豪の陰にあって引き立たなかった盛岡農もよく準々決勝へ進出した。

Q…名門が振わぬ中にあって、大会までの練習試合で負け続け劣勢を伝えられていた遠野高は惜しいところのない健闘をした。打撃一本に頼ったという苦心が実を結んで、対久慈高の四ホーマーはじめ黒工清水投手を打ちこみ、よく準準決勝へ進んだ。準々決勝では足を痛めた工藤投手が宮古貫洞と壮絶の投手戦を演じ、1―0で敗れたとはいえ、苦痛で顔をゆがめながらついに完投した工藤の力投は見る者の胸を打った。

Q…投手力に恵まれれば、宮古の貫洞以外に〝大投手〟と呼べる投手が見当らなかったのは残念だった。貫洞にしても球の配合が単調にすぎ、打者さばきにもう少しうま味がほしいところである。秀れた投手がいないため大会は乱戦が多く、いきおい粗雑なプレーも多かった。シャットアウト・ゲームは大会三十六試合中わずかに五試合を数えただけだった。緊迫したゲーム、一点を争う試合のかけ引き、これらは秀れた投手を前提とするもので真の打撃力の向上も名投手を必要とする。秀れた投手、中でも正統派の〝力の投手〟の出現をぜひ望みたいものである。内野守備ではとり立てていうこともなく、外野守備は例年よりの若干劣るようだった。

Q…花やかな打撃戦は多かったが投手が弱体だっただけで打力はむしろ低調だった。例えば決勝戦にしても、岩手村川投手は決して打ちこめないだけのできではなく宮古の貫打の敗北だった。左投手に対する研究が不足だったともいえる。また、一般に粗雑な攻撃が多く、理論通りにバントで送るべきところを強打させるベンチもあったが、絶対に信頼できる打者など望めない高校野球では確実な攻撃法を採るべきではなかろうか。例年の大会同様に走塁のうまい選手もいなかった。ベスト4に残ったチームから秀れた打者を拾えば、岩手田中、宮古佐々木、一戸根反は好機に強い好打者で、盛工の瀬川、熊谷、坂本もチームの推進力としての役割を果したといえるだろう。

Q…大会七日間は殆ず好天に恵まれて順調に進み、参加チームは悔いのない試合ができたことと思う。今年は各校応援団にも旧時代的な異様な姿のものがなく、ひときわ整然と行われたようである。投球モーションを妨げるような悪質な声援も影をひそめたのも気持がよかった。（池田）



❶岩手高の村川・田中のバッテリー ❷宮古高の貫洞投手

❸一戸高の根反三塁手 ❹盛工のクリーンアップトリオ、左から三番瀬川、四番熊谷、五番坂本